

世界の最近の原子力発電所の運転・建設・廃止動向

2026年3月13日 (一社)日本原子力産業協会 情報・コミュニケーション部

世界の原子力発電開発の現状

2025年1月1日現在 (原子力発電量・シェアは2024年実績値)

	国・地域	運転中【運転可能炉】		建設中		計画中		原子力発電量 (シェア)	
		基	万kW(グロス)	基	万kW(グロス)	基	万kW(グロス)	億kWh	%
1	米国	94	10,256.9					① 7,819	17.2
2	フランス	56	6,404.0	1	165.0	2	330.0	③ 3,644	64.1
3	中国	57	5,934.7	31	3,510.3	27	3,012.3	② 4,175	4.1
4	日本※	33	1,325.3(3,308.3)	3	414.1	8	1,158.2	⑥ 849	8.4
5	ロシア	33	2,849.9	8	422.1	12	830.6	④ 2,021	17.1
6	韓国	26	2,621.6	2	280.0	2	280.0	⑤ 1,794	29.2
7	ウクライナ	15	1,383.5	2	217.8	2	250.0	N/A	N/A
8	カナダ	17	1,354.5			1	30.0	⑦ 812	13.2
9	インド	24	818.0	9	730.0	12	1,030.0	⑨ 499	2.5
10	スペイン	7	739.7					⑧ 521	18.3
11	スウェーデン	6	724.9					⑩ 487	28.2
12	英国	9	653.4	2	344.0	2	344.0	⑪ 373	13.1
13	アラブ首長国連邦	4	560.0					⑫ 365	20.4
14	フィンランド	5	456.2					⑬ 311	41.5
15	チェコ	6	421.8					⑮ 280	38.3
16	ベルギー	5	411.8					⑭ 297	39.0
17	パキスタン	6	353.0	1	120.0			⑰ 228	16.9
18	スイス	4	310.5					⑯ 230	35.4
19	スロバキア	5	249.1	1	47.1			⑱ 170	57.8
20	ベラルーシ	2	238.8					㉒ 147	36.3
21	ブルガリア	2	208.0			2	250.0	⑳ 151	37.7
22	ハンガリー	4	202.7			2	240.0	⑲ 152	43.4
23	ブラジル	2	199.0	1	140.5			㉑ 149	2.0
24	南アフリカ	2	194.0					㉗ 78	3.3
25	アルゼンチン	3	176.3	1	3.2	1	100.0	㉕ 104	6.6
26	メキシコ	2	160.8					㉓ 120	3.3
27	ルーマニア	2	141.0	2	141.2			㉖ 100	19.1
28	イラン	1	100.0	1	105.7	2	144.2	㉘ 64	1.6
29	台湾	1	97.5					㉔ 117	4.7
30	スロベニア	1	72.7					㉙ 56	37.3
31	オランダ	1	51.2					㉚ 34	2.8
32	アルメニア	1	44.8					㉛ 26	28.9
33	エジプト			4	480.0				
34	トルコ			4	480.0	4	N/A		
35	バングラデシュ			2	240.0				
36	ポーランド					6	900.0		
37	カザフスタン					2	280.0		
38	ウズベキスタン					8	273.0		
	合計	436	41,698.6	75	7,841.0	95	9,452.3	26,173	8.7

出典：(一社)日本原子力産業協会「世界の原子力発電開発の動向 2025年版」

※日本の運転中【運転可能炉】に記載のデータは、2025年8月1日現在の再稼働炉(新規基準に合格して運転再開した原子炉)

を示す。()内は、再稼働炉と安全審査申請炉/未申請炉の合計。出力はグロス表記。出典は当協会調べ。

・原子力発電量 (シェア) は2024年実績値 (出典：IAEA, Energy, Electricity and Nuclear Power Estimates for the Period up to 2050, 2025 Edition)。

・原子力発電量の数値前の番号は、原子力発電量の世界順位を表す。原子力発電量の合計にウクライナの原子力発電量は含まれていない。ウクライナの2021年の原子力発電量は811億kWh, 原子力シェアは55.0% (ロシアのウクライナ侵攻は2022年2月)。

世界の原子炉の営業運転開始・建設開始・閉鎖の推移(2011年以降)

	営業運転開始		建設開始		閉鎖	
	基	国 (原子炉)	基	国 (原子炉)	基	国 (原子炉)
2011 ～ 2021	66	中 38、露 10、韓 6、印 3、パキスタン 4、アルゼンチン 1、イラン 1、米 1、ベラルーシ 1 UAE1	65	中 28、印 6、韓 4、パキスタン 4、UAE4、米 4、露 4、バングラデシュ 2、ベラルーシ 2、トルコ 3、英 2、アルゼンチン 1、イラン 1	75	日 22、独 14、米 12、露 5、スウェーデン 4、英 7、仏 2、韓 2、台 3、加 1、西 1、スイス 1、パキスタン 1
2022	5	中 2、韓 1、パキスタン 1、UAE1	10	中 5、エジプト 2、露 2、トルコ 1	5	英 3、ベルギー 1、米 1
2023	8	中 2、UAE1、フィンランド 1、印 1、米 1、ベラルーシ 1、スロバキア 1	8	中 5、露 2、エジプト 1、	5	独 3、ベルギー 1、台 1
2024	5	中 1、インド 1、韓 1、UAE1、米 1	11	中 6、エジプト 1、露 3、パキスタン 1	4	加 2、露 1、台 1、
2025	2	中 (漳州 1)、印 (ジャヤスタン 7) *露 (クルスク II-1)	11	中 (陸豊 1・2、石島湾 2、太平嶺 3、金七門 1、招遠 1、三澳 3、寧徳 6、白龍 I-1)、露 (レニングラート II-4)、韓 (新海 3)	7	ベルギー (ドール 1・2、アージュ 1)、台 (馬鞍山 2)、**露 (ビリビノ 2・3・4)
2026	1	中 (漳州 2) ※中 (太平嶺 1)	4	中 (徐圩 I-1)、印 (カイガ 5・6) ハンガリー (バクシュ 5)		

注：*印：送電開始 (営業運転開始していないもの)。国名の左側の数字は基数を示す。**3万kW未満 出典：日本原子力産業協会、IAEA、WNA など

最近数か月の主な原子炉開発関連動向(2025年12月上旬～2026年3月上旬)

(原子力産業新聞海外 NEWS 記事を中心に各関係機関発表、メディア報道などを参考に作成)

12月2日 高市首相、福島第一原子力発電所を初視察。復興・廃炉を「内閣の最重要課題」と強調。

12月2日 米エネルギー省 (DOE)、第3世代+軽水炉 SMR 早期導入支援で2企業 (TVA とホルテック・ガバナメント・サービス社) を選定。

12月9日 欧州委員会 (EC)、ポーランド初の原子力発電所建設プロジェクトへのポーランド政府による国家補助を承認。

12月11日 米 GE ベルバ日立ニュークリアエナジー社製 SMR 「BWRX-300」 (30.0万kW) が英国の包括的設計審査 (GDA) を完了。

12月16日 中・寧徳 6号機 (PWR=華龍一号 (HPR1000)、122.0万kW) が着工。

12月18日 フランス電力 (EDF)、EPR2×6基の建設計画の費用見積りを公表 (合計728億ユーロ、約13.5兆円)。

12月20日 印・民間企業の原子力分野参入促進等を盛り込んだ法律 (SHANTI 法) が成立。

12月22日 中・白龍 I-1号機 (PWR=CAP1000, 125.0万kW) および陸豊 2号機 (CAP1000, 124.5万kW) が着工。

12月23日 スウェーデン・新規原子力発電プロジェクト会社「ヒデバーク・クラフト」、SMR 建設に係る資金調達とリスク分担に関する申請書を政府に提出。

12月29日 露ビリビノ 4号機 (RBMK=EGP-6、1.2万kW) が永久閉鎖。ビリビノ全4基が閉鎖。

12月31日 露クルスク II-1号機 (PWR=VVER-TOI、125.5万kW) が送電開始。

12月31日 米ホルテック・インターナショナル社、バイオニア発電所 (PWR=SMR-300、30.0万kW×2基) の建設許可申請を開始。

1月1日 中・漳州 2号機 (華龍一号、121.2万kW) が営業運転開始。

1月5日 米 DOE、国内のウラン濃縮能力強化に向け、3社に対し今後10年間で合計27億ドル (約4,000億円) を助成。

1月9日 米メタ社、データセンター向け電力確保で原子力関連3社 (電力大手ビストラ社、テラパワー社、オコ社) と契約締結。

1月13日 米航空宇宙局 (NASA) -米 DOE、2030年の月面原子炉の実現に向けた研究開発で覚書締結。

1月13日 米ニューヨーク州知事、州内での原子力の新規導入500万kWを含む、原子力840万kWへの拡大方針を発表。

1月16日 中・徐圩 I-1号機 (華龍一号、122.2万kW) が着工。産業用熱供給が主目的。

1月16日 スロバキア、米国と原子力協力協定を締結。ホフチェ・サイトで米国製120万kW級の大型炉の新設計画を想定。

1月20日 印電力省、新たな国家電力政策 (NEP) 2026の草案を発表。公開協議を開始。

1月20日 米ケイロス・パワー社、米 DOE と高アッセイ低濃縮ウラン (HALEU) 供給契約を締結。

1月21日 英 EDF エナジー、運転期間延長に向けて2026年から3年間で12億ポンド (約2,300億円) を投資。

1月27日 米国初、PWR (セラム 1,2号機、各120万kW級) で Co-60 生産に向け、米 WE 社、PSEG 社、加ルティオン社が長期商業契約締結。

1月28日 米 DOE、全米の州に原子力ライフサイクル・イノベーション・キャンパス誘致への関心を問う情報提供要請 (RFI) を開始。

1月30日 韓国水力・原子力 (KHNP)、大型炉2基と SMR1基の建設候補地選定の公募を開始。

2月2日 日・横河電機、英ロールス・ロイス SMR 社と SMR 向けデータ処理・制御システム (DPCS) を供給する戦略的協業契約締結。

2月4日 英政府、民間主導の先進原子力プロジェクトへの投資促進に向けた政策パッケージ「先進原子力フレームワーク」を発表。

2月5日 ハンガリー・バクシュ 5号機 (PWR=VVER-1200、120.0万kW) が着工。

2月5日 スウェーデン政府、新規建設拡大に向け、規制合理化と沿岸地域への建設解禁などを盛り込んだ対策を発表。

2月12日 韓 SMR 特別法が国会で可決。原子力安全委員会は2030年までの「SMR 規制体系構築ロードマップ」を発表。

2月12日 ルーマニア国営ニュークリアエレクトリカ、ドイツシティへの米ニュースケール社製 SMR 「VOYGR-6」 (PWR、46.2万kW) 建設を最終投資決定。

2月12日 フランス政府、第3次エネルギー複数年計画 (PPE3：2026～2035年) を発表。原子力重視を明確化。

2月13日 中・太平嶺 1号機 (華龍一号、112.6万kW) が送電開始。

2月13日 米 NRC、米 X エナジー社傘下 TRISO-X 社の商業用燃料製造施設で HALEU 使用の燃料製造の許可発給。新燃料製造許可は約50年ぶり。

2月16日 日・東京電力、柏崎刈羽 6号機 (ABWR、135.6万kW) が発電開始。約14年ぶり。3/18 営業運転開始予定。

2月16日 印・タラプール 1号機 (BWR、16.0万kW) が運転再開。2020年1月に運転停止。1969年営業運転開始。

2月16日 ハンガリーと米国、民生用原子力協力協定を締結。

2月18日 米イリノイ州、州知事令で新規原子力200万kW導入目標を明示。

2月24日 米 GE ベルバ日立ニュークリアエナジー社-ポーランド・オレン・シントス・グリーン・エナジー社、ポーランド向け BWRX-300 の汎用設計契約を締結。

3月1日 印・カイガ 5、6号機 (PHWR、70.0万kW×2基) が着工。

3月3日 日・赤澤経済産業大臣、HLW 最終処分地選定で南鳥島を対象に文献調査を申し入れ。

3月4日 米 NRC、テラパワー社の Sodium 炉 (ケンメラー 1号機、Na 冷却高速炉) の建設許可を発給。